

みんなでつくろう  
福祉コミュニティ  
あすにはばたけ

# 乙島っ子

編集発行  
乙島小学校区コミュニティ協議会  
乙島小学校区社会福祉協議会  
広報部  
倉敷市玉島乙島2228-1

## コロナ禍での “熱い思い”を語る 新会長 滝澤 一敏



早いもので、令和二年五月の総会で井上前会長から会長職を引き継ぎ約一年が過ぎてしまいました。今年度の総会は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する可能性から政府が四月七日に非常事態宣言を発出した後の開催予定であったために、「書面表決」というこれまででない方法で総会を開催いたしました。その総会で役員改選という本会としては最も重要な議決を皆様にお願いをして私は選出されました。当時は、そのコロナもいずれば収束するであろうと考えておりましたところ、今、市内にはクラスターの発生や玉島地域でも陽性者が出てくる状況になってしまい、この先の事業自体の開催も実施することが可能かを常に検討する必要がありますが出てきています。

しかし、コミュニティ活動は皆様もご存知のように色々な地域活動を通じて住民同士が繋がり、親睦を深め、互いを思いやる事のできる絆を作り、みんなが安心して住める地域を作っていくことを目標にしております。このコロナ騒動はこうした地域コミュニティの醸成を阻むように地域に蔓延してきています。確かにコロナに感染するような状況は必ず避けなければなりません。十分には互いが気をつけながら、各事業も場合によっては縮小や改善を行いながら実施して行き、「乙島小学校区に住んで良かった。乙島は安心じゃ」と言われるような小学校区にして行きたいと考えています。これからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 自主防災組織連絡会の防災訓練

自主防災連絡会 会長 白神 実

台風の接近、豪雨災害により過去三年間開催中止になっておりましたが、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施した上で、二〇二〇年十一月一日倉敷市との合同防災訓練を乙島小学校で行いました。訓練内容は下記の通りです。

### 【マンホールトイレ】

マンホールの上に地面と段差なく設置できるため、車いす利用者や高齢者のバリアフリー対策として有効なことを学んだ。



正門右手に設置されたマンホールトイレ

### 【土のう設置と活用】

実際に、屋内への浸水を防ぐための土のうの作り方と積みあげ方を学んだ。

### 【ペットと同行避難】

避難するには、飼い主はペットと一緒に避難する「同行避難」が原則となります。避難の際は、必ずリードを付け、ケージに入れるなど安全に配慮すること、日ごろの「しつけ」の大切さを学んだ。

### 【ダンボールベッド】

ベッドの組み立て方を学び、椅子代わりにしたり、下部は収納スペースとして利用できることを学んだ。

早期の避難行動をとり、  
自分の身を  
守りましょう！



体育館内に設置されたダンボールベッド

## 玉島東高齢者支援センターより

センター長 大賀 正司

令和二年度は感染予防・三密・新しい生活様式・ソーシャルディスタンス等の言葉が飛び交う毎日に「密」を避けながら人を集めて地域活動をするという難しい一年でした。

思いもよらない事態の中で、感染対策を講じて「通いの場」を再開し活動されている関係者の方々の熱い思いを感じます。

センターとしては十分にお応えすることが出来ずに前半は悶々と手立てなく自粛していたことを振り返り反省しています。しかし、コロナ禍は悪いことだけでなく、いいことも気付かせてもらえました。通いの場では手作りマスクを作った地域もあり、小地域ケア会議ではビデオ会議に切り替えるなど一生懸命に取り組みました。「〇〇だから出来ないではなく、今出来ることは〇〇だ」と前向きな皆様の姿勢に我々もまだやれることはあるぞ！と気合いを入れて頂きました。コロナ禍も第三波、この辛抱もあと少しで出口だと信じて乗り越えていきましょう。





## 地域から元気をいただく学校教育

乙島小学校 校長 吉田 真悟

新型コロナウイルス感染症への対策が、あらゆる団体・企業・組織はもちろん、個人・家庭・地域社会に求められた1年間でした。そしてそれは、今後も当分の間継続するものと想定しなければなりません。まさに“ウィズコロナ”の時代を、私たちは生きています。小学校も例外ではなく、今までと同様の教育活動・学校行事を続けていくことが、非常に困難な状況になっています。子ども達にとっても我慢に次ぐ我慢の連続で、失望感・閉塞感を深く味わわせる結果になってしまっています。

そのような状況の中、ふれあいウォーク、三世代ふれあいグラウンドゴルフ大会……と矢継ぎ早の実行委員会、そしてなんと、凧揚げ大会という新企画まで登場し、「えっ？やる気なんだ！」と正直驚きました。

コロナ禍でも、安全を確保しながらできることをやっていく、こんな時こそ工夫することで活動の質を進化・発展させる……、口で言うのは簡単ですが、もしも感染が拡大したらと思うと、及び腰になるのが普通です。そこを、地域の活性化のために何とかしようと知恵を絞る地域のみなさん。そんな熱い思いの地域に支えられて、学校教育は成り立っています。地域の元気は学校へのエールと受け止めています。

本年度、「乙島小地域学校協働本部」を設立しました。地域住民や保護者の皆様にボランティアとして学校の活動を支援していただきながら、地域の教育力を向上させ、子どもと地域の大人、そして大人同士がつながることを目的としています。乙島小学校区の元気を、学校教育に分けていただけたら幸いです。

## 地域の防災意識の高さ

玉島東中学校 校長 吉実 隆充

以前に教諭と教頭としてお世話になっておりましたが、校長として令和元年度と令和二年度にかけて玉島東中学校で地域の皆様には大変お世話になっております。

昨年度、令和元年度の8月15日には、玉島東中学校が、台風と高潮への対応から初めて避難所として開設されました。皆さんにお伺いしても、いつも乙島小学校だけが開設され、玉島東中が開設されたのは初めてのことだそうです。コミュニティの防災担当の方や地元消防団の方が見回りに来てくださいました。想定では武道場へ避難するということでしたが、猛暑の夏ですから、エアコンがあり、畳のある作法室へ避難していただきました。そして、令和元年9月の防災の日に向けては、自主防災組織の会合において、その前年の真備の被災者避難の経験からの改善策を相談されていました。

本年度は、新型コロナウイルスの流行という新しい課題のある中で、段ボールベッドを使った避難所設営や、防災訓練を11月に乙島小学校で実施され、本校教頭が参加いたしました。

毎年、地域の皆様が、高い意識で課題をもって防災についての研修や訓練を実施されていることはすばらしいことですし、うらやましいと感じております。

令和2年は、伝統の乙島祭りもコロナ対策で中止するという非常事態の年ですが、コミュニティ協議会では文化的な事業も継続され、地域の連帯を支えておられます。中学生も地域の一員として、また後継者として育てていただけることに感謝しております。

## 子ども達の笑顔あふれる乙島

乙島小学校PTA会長 矢吹 幸一

長男が乙島小学校に通い始めたのが、12年前。思いやりのある温かな地域の皆さまのお陰で、のびのびした雰囲気笑顔いっぱいの乙島小学校が大好きです。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活は大きく変わりました。全国一斉臨時休校から始まった新年度。学校教育現場においても、さまざまな制限が強いられ、教育活動そしてPTA活動が思うように出来ない状況が続いております。

そのような中でも、校長先生をはじめ先生方の献身的なご努力と熱意により、子ども達は学びを深めております。体育参観では、子ども達の生き生きとした姿、明るい笑顔を見ることができ、感慨深かったです。

また、現在、乙島小学校の児童数は372名です。年々減少しておりますが、共働き家庭は増加傾向にあり、放課後児童クラブを利用する児童は増えています。児童数増加に伴い、クラブ数も三つに増え、支援員不足の解消は大きな課題の一つです。保育施設、広さの課題につきましては、今年度から天神ハイツ内の民家をお借りすることができたため、解決いたしました。地域の皆さまが快く受け入れてくださったお陰です。ありがとうございました。

それから、地域の皆さまには、登下校の交通ボランティアや草刈りボランティアなど積極的にご協力をいただきとても感謝しております。

## 東中PTS懇談会に参加して

玉島東中学校PTA会長 中野 晴彦

玉島東中学校では11月にPTS懇談会がありました。PTS懇談会とは、P（保護者）、T（先生）、S（生徒）の三者が集い、年に一度、お互いの意見を交換し合う場です。心を開いて話し合う場を設けることでお互いの理解を深め、生徒がより充実した学校生活、家庭生活を送れることを願って行われます。その話し合いの中で生徒の皆さんから、日常生活の中で、2分前着席、あいさつ、環境の美化等いろいろなことを課題にして取り組んでおり、その中で私が感心したのは、生徒の皆さんが自分たちの良いところ、悪いところをしっかりと分析出来ていたことです。簡単なことのようにですが、なかなか出来ることではありません。自分自身をしっかりと分析し、反省し、それを次に生かすというのは、人間として成長するうえで非常に大切なことです。ぜひ今後も継続できるよう心掛けてほしいと思います。またこの話し合いの中で、自分たちのお小遣いの中から、災害で困った人のために募金がしたいという提案がありました。社会のために貢献できる人間に、立派に成長していると感じました。子ども達は、幼稚園・保育園、小学校、中学校での生活、地域の行事などいろいろな機会を通して、先生方、友人、地域の方々からたくさんのお話を学び、成長しています。これからも地域の皆様には子ども達を温かく見守って頂きたいと思っております。

## コロナ禍で感じたこと

いずみ乙島保育園 園長 守屋 恵子

「園長先生、今年コロナじゃからサンタさんくるんかな～」と心配そうな5歳の男の子。「お利口にしていたらマスクをしたサンタさんがきつと来てくれるから大丈夫よ。」と答えたのは先日のこと。令和2年、今まで経験したことのないコロナウイルスに翻弄された1年となりました。未知のウイルスの前には、どこまでの対策が必要なのかわからないまま保育園を開園することの不安に、あたふたしながら日々が過ぎたように思います。最近では、「新しい生活様式」を取り入れながら保護者の方にもマスク・手洗い・消毒・3密をさけるなどの感染対策に協力して頂きながら、子ども達にもできるうがい、手洗いを習慣化していきたいと思っております。

コロナ禍で、人への思いやりや、支えてくれる人への感謝の気持ちを大人が示し、子ども達が少しでも楽しく、心に残るものになるよう保育を工夫しながら進めていきたいと思っております。当園は創立以来、1年を通して園外マラソン。園内では裸保育。肌をしっかりと鍛え元気いっぱい遊んでいます。これからも地域の皆様には、マラソンをしている子ども達に「がんばれ～」の温かい声援を頂けたら嬉しいです。





## 「食品ロス」を減らそう

環境衛生協議会 乙島支部長 後藤 保美

まだ食べられるのに捨てられる「食品ロス」が、日本では国民1人当たり年間約48kgという計算になります。この数字はWFP（世界食糧計画）が支援用に購入した食料の量の約1.7倍に相当します。なお、WFPは内戦や災害に苦しむ現場に食料を届け、人々の命を救おうと設立され60年になり、2020年にはノーベル平和賞を贈られました。

先のような数字を目にすると心が痛みます。毎年10月は食品ロス削減月間です。毎日の料理、食事、日々の小さなことを見直し、食品ロス削減を意識した習慣を身につけることで、家計にも地球にも大きな良い影響を与えられます！先ずはできることから、ひとつずつ始めていきましょう。「今日からみんなで、目指せ食品ロス0生活！」

## 福祉無償運送「乙島V0らんらん」 利用会員募集のご案内

利用料：ガソリン代実費のみ

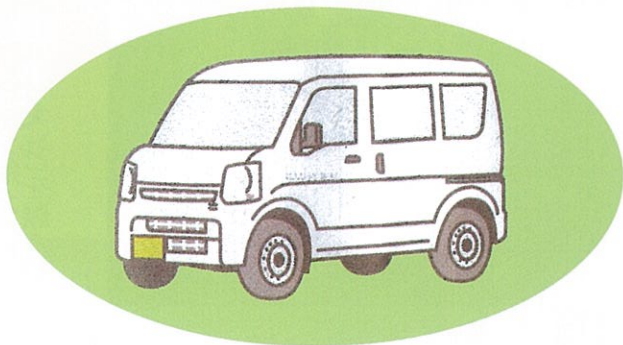
☆運行日程：週3日（火曜、水曜、金曜）予約制

☆運行時間：8:00～18:00

☆運転手さんも募集中

### 【お問い合わせ先】

乙島小学校区社会福祉協議会 事務局（担当 瀧澤）  
〒713-8102 倉敷市玉島2丁目23-31 電話 090-4692-3686  
又は、町内会長・お近くの民生委員まで



## 楽しかった「しめなわ作り」

乙島小学校四年 立原 凛佳

私はコミュニティのしめなわ作りに参加しました。今年で3回目になります。初めてのときはあまり上手にできなかったけれど、だんだん上手にできるようになってきました。ちいきの方々がいねいに教えてくださるので、とても、わかりやすかったです。その先生の作品は、とてもきれいでした。

しめなわの作り方は、最初にわらを水につけたぼうでたたきます。こうするとやわらかくなるので、あみやすくなるそうです。その後2等分して、それをまた2等分してあんでいきます。最後にかざりをつけて完せいです。コツは、ねじった後に強く引っ張ることです。上手にねじるのがむずかしいけれど、楽しかったです。私の手の大きさにあわせてわらを少なくするように、アドバイスをもらいました。わらがあまったので、全部で3つもつくりました。みんなとても上手だったので、もっと上手になりたいと思いました。

自分で作ったしめなわは、げんかんにかざります。お正月がとても楽しみになります。私は、しめなわ作りがすきなので、来年も参加したいです。

## おかしんがい 乙島岡新開と守屋家三代の苦闘(その2)

郷土史家 大島 崇雄

乙島岡新開百二十町歩の完成には多くの困難が待ち受けていた。  
〈自然とのたたかい〉

乙島は高梁川の河口に位置しており台風の際は高潮被害を受け、風雨による洪水が多々あり潮止め堤防工事は困難を極めた。

〈上流の村々とのたたかい〉

船穂・長尾・連島などの村々より乙島岡新開が出来れば洪水が発生するとして倉敷代官所へ訴えられた。後に江戸訴訟にまで発展し解決が長引いてしまった。後に倉敷村の植田武右衛門が仲裁に入り、やっと解決することとなった。

〈村人たちとのたたかい〉

乙島の東側は高梁川の堆積作用により遠干潟が出来ており、村人たちは蛤・あさり・乙島じゃく等の魚貝類を獲って生計を立てていた。乙島岡新開が出来れば生活が立ちいかなくなり反対の声をあげたので、守屋家はやむをえず村人たちに一千両の補償金を支払うことで解決した。

乙島岡新開は乙島発展の礎となり、坂田貢の坂田新開・E地区・玉島ハーバーアイランド造成等に繋がっていくのである。

今回は、明治17年（1884）台風被害について述べたい。

## 百歳おめでとうございます！

元気いっぱいの原田カヲルさんを訪ねて

民生委員 樋口 洋子

毎日の散歩を欠かさず、自宅近くの御大師様の掃除や花の取り換えを行っておられるカヲルさんを訪ね、「元気の秘訣」等を聞いてみました。

同居されている息子さんご夫婦と笑顔で迎えて頂き、ひ孫さんまで4世代が集まってのお祝いの会のアルバムを嬉しさいっぱいに見せていただきました。

大正9年に地元で生まれ、この地でずっと生きて来られています。戦争でご主人を亡くされ「子供を育てるために仕事も必死でやってきました。漁をはじめ出来ることは何でもやり、85歳まで仕事をしました。苦勞をしたが今はとても幸せです」と。長生きの秘訣を尋ねると「自然現象です。人の生まれ合わせです。自分の身は自分で守る。そのためによく歩き、よく動き、よく食べることを守り、認知症、寝たきりにならぬよう努力しとります。」と噛みしめるよう話されました。

息子さんご夫婦も「食べる努力をしてください」と叱咤激励をされているとのことでした。記憶力も確かなもので、今でも裁縫をし、デイサービスで積極的にリハビリにも取り組まれています。何事にも前向きな姿勢に元気を頂きました。「生きることは大変です、手を合わせて有難うの心が大切！」の言葉も心に響きました。



名誉横綱（乙島中山）  
原田 カヲル さん





# 令和2年度事業報告

乙島小学校区コミュニティ協議会と地区社会福祉協議会として、乙島地域の住民の皆さんが楽しく、親睦と世代を超えたふれあいを持てるよう、以下の事業を実施しました。

実施月	日	事業名	内容
5月	20	コミュニティハウス大掃除	3密を避け、マスク、手指の消毒をして全ての団体が協力して清掃を行った。
	24	総会	新型コロナウイルス感染症のため書面表決により実施。
9月	13	第14回敬老会	3密を避けるため、各町内会長に記念品を受け取りに来てもらう方法で実施した。
	26	乙島小学校区防災訓練	コロナ禍で延期、規模を縮小して11月1日に100人規模で実施した。
10月	24 25	乙島祭り（地域清掃）	乙島祭の千歳楽の巡幸は中止となったが、祭り時期に町内の清掃活動を必要とした一部町内会では実施した。
11月	15	第18回ふれあいウォーク	参加者は例年よりも少なかったが、秋晴れの下、世代を超えた参加者により実施した。
	29	第5回三世代ふれあいグラウンドゴルフ大会	屋外競技ではあるがコロナ感染予防対策を取りながら高齢者から子どもまで三世代の住民がグラウンドゴルフを通じて親睦を図った。
12月	20	注連縄（しめなわ）作り	感染予防対策をしながらの開催となったが全員が楽しく作成した。
1月	11	第1回手作り凧揚げ大会（新規事業）	体育館の中で親子が協力して連凧、角凧を作り、運動場に出た。40連の連凧に大歓声を上げながら開催できた。
	15	とんど焼き	乙島幼稚園児とともに伝統のとんど焼き行事を実施した。
	31	自主防災研修会	10年前に行った火災警報器共同購入について、各町内会長、自主防災会長等に依頼して電池交換時期の到来の周知と交換の呼びかけを行った。

## 天神ハイツ町内会

天神ハイツ町内会 会長 宮地 義美

天神ハイツは乙島小学校の北東に位置し、子供達の通学に10分程の場所にあります。現在、町内には一六五世帯の方が住んでおられます。

町内には、町内会、秋桜会（老人クラブ）、子ども会、婦人部の各部署があり、年間事業計画により活発に活動しています。今年、新型コロナウイルスにより各イベント、事業が中止になりました。その中、秋桜会の有志の方々による、毎月一回各家庭から出る資源ゴミを各家庭の玄関前で回収する活動をして頂き、町内の皆様より大変喜ばれ助かっています。

町内には、古代よりありました、山神社が祀られており、毎月一回清掃日を決め町内役員で清掃を行っています。

## 泉谷の「百万遍」

泉谷町内会 会長 樋口 諭

「カンカンカン ドンドン」町内に鉦と太鼓の音が鳴り響く。「ひやくまんべんしゃー」

令和二年コロナ禍で多くの伝統行事が中止となる中、泉谷で百万遍が行われました。

百万遍は、元弘元年（一二三二年）京都で流行した疫病を鎮める為、念仏を百万回唱えたことに由来しています。

泉谷の百万遍は、毎年旧暦八月に二日間かけて行われます。前日祈禱札（大札・小札）を作り、明朝、観音様に納めおつとめ後、鉦と太鼓を打ち鳴らし町内を巡回し邪気を払います。他地区とを結ぶ道の口（境界）には、町内安全と書かれた大札を立て地区内

よる玉串奉奠を行い、町内の皆様の健康と家内安全を祈願してきます。来年度は、コロナ禍が収束し平穏な日常が戻ることを願っています。



## 川崎町内会

川崎町内会 会長 宇野 元晴

川崎地区は玉島港の北端、里見川と溜川の合流地点で、乙島小学校の北西の位置になります。世帯数は二〇軒、約二〇〇名が住んでいます。西側の海岸線には、川崎みなど公園があり、有志により松やツツジ等の植木の手入れや除草をして、きれいに整備されています。その中に旧八幡灯台の頭部が記念として残されています。公園のベンチに座って玉島港のさざ波や釣船をゆっくり眺めていると心が落ち着きます。

また、東の山側より、映画のロケ地にもなっている玉島港界隈や円通寺等を眺めるのも格別です。しかし、海岸沿いでもあり高潮や、山側には急傾斜危険区域もあり土砂崩れ等、防災の備えが必要な地域でもあります。



近況の変化として海岸線の道路はE地区へのアクセス道路として交通量が増えています。また、山陽紡績の跡地の住宅地開発が進み地区内の通行方法の改善にも取り組む必要があります。町内には危険箇所や、空家の問題等、まだまだ課題があります。みんなで協力し、より安心して住みやすい町内にしていきたくと思っています。

の災難防除を祈願。各家には家内安全と書かれた小札が配られます。「大数珠繰り」は公民館で少人数で行いました。泉谷の百万遍はいつ頃から行われていたのかはよくわかりませんが、現存する鉦の裏面には乙島村泉谷念佛講：貞享第五戊辰：等の刻銘があり、元禄元年（二八八年）が読み取れます。昭和の時代百万遍は子ども中心の行事で、上級生が大数珠をもって各家を回り家人と数珠繰りをしていました。子どもと大人が一緒になり地域の安泰を願う伝統行事です。



## 編集後記

コロナ禍により、話題に事欠く中、多方面の会員の皆様から寄稿して頂きました。

これからも協議会としては、皆様とともに更なる活性化を目指してまいります。「住んで安心、暮して便利な乙島」になるよう皆様方の一層のご支援・ご協力をお願い致します。今後とも『乙島っ子』がその一助となるように努めます。

早瀬 俊和

## 編集委員

- 赤沢 始・石亀優介・板野敏夫
- 後藤保美・瀧澤厚志・早瀬俊和
- 原田謙一・樋口洋子（五十音順）